911.3
ゾ
3~4

東京大学
総合図書館
蔵書

續霜轍誹諧集巻三

秋

世事いとうとく病也　行

秋きぬとハ秋風をゆく年　昭狀　風狀

夏瀧乃ゆくゑ歳の月の情

彩蕎麦のうゑ為やきし其湯蕎　鱸船

月をかうまん浮船も　松

秋ゆかあくあとハうゑ生秋の風　其梅

物もきハきあるゑ生ゑ李廚子

さうゑうゑせゑ　ゑる　為　金　心朝

ゑう　秋の鶴うかゑる虫のゑ

秋の鶴　松と秋樂をうきまゑせゑ　疎影

芭蕉樂ハ鶴も波を為ゑゑ

秋も常ゑる　鶴　寺の庭　魚九

樂ゑゑをうゑ人ゑ秋も来ゑゑ

朔の来をゑうゑあゑうゑうゑ秋月　玉芝

霧風もこゑ為　貴の和化寮

秋貴をゑゑゑの九ゑ寳ゑあり

月の宿ゑう照す　冠　山節

賢人乃ゑもゑゑ秋の寳

むかし手にかゝる為金
出石のにしきりし鷯網　魚己
こゝく瓶のかたへ裏き
肩をあてぬる商人の枯ありて　露暁
かゝとひい瀬て面影とまる
花守や黒灯もある壺の内　野了
やりまりうなも為太の藤乃声
禅の篁に紅葉あり　久絶へ　百工
廊下さり来く茶壺のつけさる
膝をあつかりける月にかゝる　薮牛

露をのせし月ひとりすむ　万流
東ノ地を弾てむる小机きぬと
きつもおまゝ冠のなとも
御舟ノ菊の籬乃たし　雛　玉芝
為しよ月の花くさ九打
法棒かとうきまさき　松浪　守大
名月の名好あろき野の塚
望田かむ打出為金乃さか　呂風
随房見篠ノ又鮮とける
あらし菊の島乃隠れ月　朱

閑か粧を猿ハ花もあり　露蝕
白襟たる暮の見ゆ月影　浅涼
扉の夢もまるし上手乃風にあハざ
猶未にうけ陵の松　木公
盃とりてもゆりうり南風
小鹿の声を出しうるさき大書院　替枝
月を待庵に来扶入きせる
まる冬枯れたり露し土　五株
出きぬ肉にまやまや立ちく
踊子ハ喧嘩し寄をあてまうり　此通

秋をよは秋や風の音ちぬく
雨しけ窓ぬり漏々ぬ月　疎影
物好しも羽負し鳥の前
虫をきすして待きふるし秋　万流
影募を尊敬ぬ辻堂
間済に身を濡しも京の春　貝来
暮にかけ人ハ出まに急ぐ秋
寺を滞たり鐘守乃声　藤雄
夕に栄の月新しき藤浪華
涼風乃簾も京物の内　五株

〇三

閑和歌を獲ものハ花とのう　蘭

自猪名の野の名残　月　彩　　浅流

廉の夢さめ上手乃風よあハせ

猶未よ　陵の　牧　　木公

盃とれ　明月分色

小倉夢を出くうきもの大書院

月を待庵よ未秋八ツ半

ものの牡丹　五　　五株

出ものの内よ出ものの

諦ハ嗅嘆と言をあつまう　　此通

秋を　秋の月の名残

西の窓　月　落　月

物　秋　高前

虫　ものと待きつる　秋

彩菓　尊　辻堂　　一方流

岡崎　物　　疎影

碁　人ハ　秋　　貞莱

夕　月　彩　家　　藤雄

帝　風乃　京物の　内　　五株

月前に秋を待月の影い入
雲入色ちりそまる　秋　月　疎影
和尚きこつもうそきい白
あ名神　孫の月よ　丸きこう
中そうきこ月頃の秋良　牙答
ゆそそ　月　眉山
水の藤ら陽藤乃命うや
藤も今かくいと月ち　桃水
月の藤ちあ名　勢の　菴
藤乃あ月を紅葉よ神い色　月

物祝ともよこうう名い　花頃
宵宮の松めつき　雲　月　疎影
後藤物ち人も　一　藤
ちき　よ　雲　ちの乃　月
月い　藤　月　不倦
あさ月のかそ　や　咲後の　桃水
菊　雲　盛　月乃あを　藤雄
藤　雲　月　月　人鼻　月
鮎　る　藤て　清き　か　河
物ちき　裏　月　藤　月　馬

秋のあつまるよりあめ　合歓

月を待花藏めるの孫なるの孫なるの　月

容かりして細き水前

芳信の指乃にきるの藤指考

月をまつ人い鄭をうく藏

指乃やめい蹴乃ハウ　指月

藤ちる神いなの財まうり

孫賀をきしつるの孫も衡　魚乙

八月を待く合圓の廊あり

月のうちいるも眠る虫乃考　万流

出家の指とまてやる　桃水

別点す移るくと秋の風

秋乃夜安三井の八相

山のうちむうるうる神考く　たゑ

親子のあるものい三線

あり沢の八月通場かるきるの

芳乃考も乃よおめる秋あるもや

まるるくもすむせるきの乃月　魚乙

紙おいるとるるる座の月

風考うさいつく通る為乃考　たゑ

出家の後とまてやう貧

別京より移りしとき秋の風　桃水

秋の夜寒三年の八月

山のうしろ月ちらつく蟋蟀　たゝ

親子のあるものい三線

あり酒の入り滑稽かたりきるの　桃水

ちゝ母も見よ秋の夜

まゝ母もすゝむ月のきり　魚乙

紙衣いろとそまる座の月

風邪ひきいつく通る唐乃夢　たゝ

[illegible]

万流

[illegible]

万人

[illegible]

魚半里

[illegible]

桃氷

[illegible]

蘆州

[illegible]

桃塢

[illegible]

露暁

[illegible]

計志

[illegible]

蘆州

[illegible]

日

[illegible]

鶯罷あらん人い美戸を門立て毒は

[illegible]

虫のまをけす松の[illegible]

疎影

[illegible]

鱸門[illegible]

鱸船

四条の水乃糸よ居流き

乃八[illegible]

月

月も田舎の眺[illegible]

桃水

[illegible]

端呉

貢乃月盃よりの[illegible]

うらんて乃ゆ[illegible]

疎影

[illegible]

[illegible]

百水

[illegible]

[illegible]

白扇

[illegible]

[illegible]

貞右

まこと酒をものする業の事

[illegible]の業のうらいく[illegible]風の[illegible]　可行

[illegible]ものを変ずまい　虫

秋もまもなくまれなる前ふり事を　月

初嵐森を渡さる木乃やうな

[illegible]門を　[illegible]の　内い[illegible]く　[illegible]

紅葉をかめとも無いうハ乃[illegible]

時代前後の乃ゝ[illegible]ゝ月　[illegible]

[illegible]けさを鳴る秋乃村雀　[illegible]

[illegible]戸あらはなりあけの月　葵光

上戸と人酒をかつく月をまち　風狀

月の初空をつあしの[illegible]

[illegible]ゝる後の雛　[illegible]

葵[illegible]八月のゝを[illegible]　鼠友

[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]月の色

世を惜人の変あゝい　虫　其芳

月乃後[illegible]ゝ[illegible]

秋もこゝ[illegible]年の秋ゝ[illegible]　加成

[illegible]殿　[illegible]

[illegible]　秋とゝ　疎影

よき袖の衣を見する揚屋町
鼓弓ハ秋乃情をしる夢　我笑

鳥膓より細て渕かき
菊好の年をあやかす秋となり　犬士

世のうさ乃止まるやうな秋のくれ
芭蕉やあかり高く出る夕月　踈影

ありもせぬ穀の葉まける七夕に
墨ぬきつゝ宵月乃雪　草伍

公達帰きまつる秋住迎
馬おきし里なり何をかゝ出　貞右

流るゝ衣の色や清き川
穀の葉におとしも古衣をすゝけく　自道

葉合きこつゆと流り孔かさく
出かゝり遠ゐる吊猶乃まつ空　和晴

秋の日暮し月の後来
栗まかり志傾りかせる小鳥羅　野了

來るも暮月の西へ入影
河霧ハのかゝ夜肉を京をま高　踈影

鳥居色岸まで雲く廉の夢
押あし遊よりし月ハ纏衣　鹿笛

[illegible]

指数　刈賃船もつらぬ　[illegible]

[illegible]

燕らいめ迄い牡丹鴨を[illegible]て

[illegible]

月出く境の沈と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

醉宜

如稲

鱸船

竜石

藤雄

[illegible]

山里乃[illegible]の月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白扇

守大

有秀

蝶夢

子垂

哭るゝ物あり長命の桐
秋雨や隣翁か木綿針　臣石

居宅の鐘いきりと秋入
萩頃まて田舎乃物とおもはれき　幸枝

薄積のくさりてあまり山深き
篠へあかりまてはよし簾乃方　守大

雨發ニス湊ノ舟ー謡ヲ
咲りきりをまけるまゝ月おそく　勢州白子 巴江

月の秋や御雁の雲もいとはすく
秋の山をあるものは萩　丹後田辺 常軻

豫入くも蝶はあまりかそきりくま
團扇まゝ発也とのなり蔵なり　付

虫をきゝつゝ落る柳葉
貴ハきん松茸く在る月乃前　播州石原 一石

為の愛吸物据ゑ咲たし免
白いまゝ見あく河さゝ月乃花　江州八日市 風童

あくひまかゝりく紅葉の露
旅の秋朝前乃燈口をあけ　遠州植杢 冷石

もらし露くまく又枕
世まゝ格子ゝ雨まで格子に姿庵北月　江州中河内 後彫

大かた柳ちりて庭すゞし
露ちりも読まぬ螺貝の聲　　同
和尚ありて後眉毛もえのびず
江州彦根
巽山
秋よりおしき湖の一目
雅室のりともあるゝ月の亭主
同
青湖
猿蓑乃あつかり菊酒の礼
かまりかな空猿の新酒
風童
毛見のもれあとゝまくる稲莚
こゝろ上戸ハ秋乃感ふき
くつろ指さ牡丹の根やとくる
江州速水
柳水

なけてまゐるとはなへ夕月
粥分あつき頭巾のさり捻ありて
同
簾の甲斐殿よろもし
月入てあと猿りし乃星の照
風童
洲あきめ物よ菴の長持
結まいはす蜜柑の塩も浮乃世よ
同海津
蘭洲
蓬摺の声いたちめ雲泥家や
月の市舟も自和きさを
同中郷
玉嘴
秋志中へ月のむら棟
見きまり味ひなさる簾乃都す
丹後日置
清孝

入国帳うちけき　見　考

月彩を而鞆なくも海うち

如唐いとなる鞆渦を月すして

何　於尾徒の　岳　月　ら　也

歩　為く　霧　夜　ふ　ら　す　蕾　椒

九　う　き　つ　ら　ち　の　ち　乃　幕

松　ら　と　の　以　上　賓　の　ま　也

ち　乃　茅　の　鮫　て　さ　ら　て　後　賊　の　奥

ち　ち　く　ち　ち　也　唐　の　ち　ま　ら　て

ち　ち　ち　の　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

肥前佐賀　可笑

日　茶烟

日　拗松

丹波馬路　枕流

後彫

略の羽ちいくさへ舟さす

戸ハあけと角ちゃ出乃ちいり

泉帝を育ふ系の　二月酔

あさ角ち向ハの山乃月ちあ　内　一石

浦引ち国南のち　抹紅系

人ちりさきり　綿を　ち　菊

月ふさいあ月の物ふて

唐金ハのり的ハり　加ち　舟　箕山

男撥人と呼ち く　ち　ち　ち　ん

市物仕ちて　船ち　東ふ　ち　ち

丹波小野尻　松陽

江刑新庄　如翠

日長演　不曲

秋ぞ今月の三秋さ乃表ら

月初潮乃満り一秋　紀州長嶋　百雄

山くの果一枝り雲

あま衣と天ら便月の雲　江州猫会村　四鳴

模の郷と月を月乃雲

きんとい菓きやうな味　月長濱　東家

秋の名き孫と落く名

きりくす鳴ある云用の菓乃　風童

ふを物さ名歌里うきうあり

東ぞり月の恩をかもいか　月塩津　旦山

飛り芦の猶徳　乃ぞせ

秋ぞたや集りうぞきき湖の者　月国友　扇計

物ありめりめるとくるの星

十六秋ぞ名ぞ也雲ハけも来ゑ　月米原　火丸

大雪と猿のちと　秋　俊

彩さ人うすき雲乃月の月　月松村　只兮

秋風り高味をくめり羽　柳

也つりい夢と　ものいりき　名名　丹後田辺　歌丸

書生い苦乃市ゑと　ゑきき菓

俊廉ぞ也用　周の秋ぞ　月　只宮津　金今

名をうりうらく殺波江の芦
四橋やこちらうらなる月出上　長　柳支

詩聯法師もかく山役　丹波福智山　李蹊

海雲うり移りきりと月を照
市孔雀よ恋を舞せ山あり　江州落合　三花

猛るかからひあさ角の角
奥山いさうる実へ色麻の東
月　知水

高かるけりうりかりと猫
このんやり月は秋あはあをを
うう熊めんと蒲うくもうり

歌丸

来くを虎落り菅やうもうん　箕山

さうれの猫りめくれ狸
唐の変状の孝役かうれ出　丹波保津　牆東

一夏り元山変うる月のうる
年くあつうる秋の感　長濱　扒文

麻へ歩る月を四つ時
猟人はきり猫の安　落合　笑風

鳥よ来あ人を唐へ麻名四
菅り形けくかう形くい　田辺　可飲

雲の谷月のもゝ出あり　東山

踊るつまゝく　秋色来るうり

丹波亀山　如蘭

面いもちゝあり　蒸り雅ある

苔まゝく　花線へゆゝ　湯　抓

李蹊

かゝけう　必ゆつゝ　秋の面

落のつまゝ　ほとく　瓔　蓮

日

後の月　名ゝへ後ともゝ

物もとゝ　物　紅葉　もとのも

常軒

岩蓮花ゝく　石切り　都

華を出ゝ　松りあるゝ　秋瓔の月

日

尊瓔のおはき　書物屋

月のゝ眼　瓔の　恩を　寺　高き

丹波福智山　箕山

山ゝの　系もまつゝ　菊　畠

ゝの月　名ゝ　南　蟲　の　雲

三花

掘の　穴を　ゝと　病　蟲

ゝの月ハ　名を　ゝ　月　名ゝの　伊

四鳴

風　秋の　ゝ　名　佛を　いゝ　蓮

江州速水　無何

手水を　つゝ　手の　内り　月

あゝ　ゝ　ゝ　ゝ　月のゝ　ま

踊るゝ　ゝ　名ゝ　歌ゝ　名

日草津　推恕

[illegible]の味乃[illegible]の月　青湖

秋も半ばの[illegible]も　[illegible]

[illegible]の[illegible]の月　山城菊　黙亭

かぶとの鉢を洗ふ[illegible]　酒

[illegible]　麦根

かまくらの[illegible]も[illegible]の[illegible]　百梯

[illegible]の[illegible]の月[illegible]の月　江州小室　巾風

惟茂のさかりぬ[illegible]　[illegible]

秋をこゆるて後て[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　日野須　歌玉

[illegible]の[illegible]と三線よりの[illegible]　小室　波笑

一[illegible]の[illegible]を[illegible]ます　[illegible]

[illegible]世をすめよ[illegible]ます[illegible]

[illegible]の[illegible]の月うすくと　只今

水梨乃味うすき流の身　江州内保　雲鳥

[illegible]うそ[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]池の[illegible]　機かるハ　虫　机友

[illegible]ハ[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の月も　[illegible]　柳文

秋さへもちらりとこす嵐
菜刈乃おもはく露の洒　　机文

月ありなから遠江戸の合巾
蔵ハまたく雨もさきもし侶　　其山

周りの人夜ふけて月をみるかり
踊すゝてまかし来宵　　蒙之

渡の舟乃たくを松か根
昼の月名残り濡かせぬら　　彦根 宮之

家と塵か桐のかゝる井戸
此あたり此月中を出かけむ　　風童

市人のゆらと月ハまうけとの
たくしん濃く水衛世中　　江州瀬戸 酔月

野宿して月又細く出鉄
霧の本みると出かり虫の声　　同新庄 鵬西

東の水に桶を秋の哀
茶湯なし肥の庵室乃蘭　　同樋口 雎足

比丘尼ら宿すきかゆ徳衛
伊達ってあくハ小庵の薬師仏　　同長濱 南飛

栗も栗耀の今は秋乃衣
身をしむや去りし乃きの霜あらし　　山城新 眠竜

[illegible]の花を[illegible]ていた紅葉
踊りてあとの菓子まきおき　肥前佐賀　梅宇
山寺の木菓ゑらばれて去や今朝
秋の日を人も惜きかゝり人　河内海津　一枝
落ちり猶まい月でのせう猶く
あらしを嵐の消毎　夕ちる
去年ほとの力まきあり　初嵐
[illegible]まめをもてい　[illegible]も盃まい
[illegible]智恵もあるいわもう胸の月
[illegible]秋とまきい猶ふも　むつまし

落とまきひいやしまい猶
ひとつの[illegible]とあもまき猶り
[illegible]長濱市[illegible]
こそ[illegible]賭の将棋きいう
おまりい蘭よ　[illegible]　[illegible]場　枝
何とまく月の[illegible]　[illegible]酒ま
紅葉一枝　[illegible]　乃　祿
[illegible]こそるもいつく秋の蠅
盤・夢人飯の　かそく　[illegible]　月
[illegible]長濱市[illegible]

宮城月の海をのぞく　夕きえん

温竈のうちの月いかをぬらす　職雀

そらとぶ月を孤ちゑがく秋の蚊

掃掃して花の蕊の裏る晴

花ハ長演寺陸奥

右　都良香

秋長さをかぞへてうきぬ水鳥や

月うり半の高い　用　の　宵　作者知

月よ長籍の路ゑをおろ

ゆうううかぶやうなる種ゑ　万流

ぬはまの色ゑる月よあけぬ横

玉簾横ゑまけるゑ　虫乃夢　可行

こぬゑい月をうゑる　蟲

蘆の夢かゑいたゑうハ色を

傳ゑとうゑて月き更　蔽牛

歯ゑうゑゑる秋のゑゑもの　玉芝

むうつき歩　珍虫の夢

書生ゑ素ゑうまを掌さん　桃水

茶碗の高をゑゑ孫ゑて

虫うせうゑ傳うめひもの　蹴影

十人並と見なす蕉翁

月雪をあいすれば撲の播磨哉　呂風

三ヶ月為の帆をしの行用

赦の使来るとなれば海乃秋　鱸船

かうして為り渡も出やうと

月ゆゑ雪の岩嶽の黒貢　可行

潮と鶴いれば海と貢乃月

神ゆゑ雪ゆゑ鳴る夕　藤雄

裏町乃秋いかに荒ゆゑ

何為月を国　八月　百余

赤人つゆ秋を　秋ゆゑ

自満宮落ち年のゆゑ種　可行

秋の沖月と雁を

十六夜乃月ゆゑいかゆゑ

海の物潮くいゆゑ

手秋樂ゆゑ　大音　魚平星

波の芳ゆゑ月ゆゑ雨　嵐

鶴ゆゑ月ゆゑ命ゆゑ　蟬　草伍

船ゆゑ物ゆゑ

月ゆゑと味乃汁　百余

おもかるべし四蔵書の秘事多し

藻の花山の移り行く夢

五株

ためあつ肌のうきさかぬ沖の

東用

掛け捜さんの苔さらさら秋月

荒細へ志かしうすき月の影

北丘

ちゆ徳りす蔭をきりこむ

代々のかたもやきの門柱

寺大

たゆ〳〵かりすり秋風をあく

少この頭を松すり夢さめ

保光

きりさを月よりへるるもの是 二尾

白髭ながき雲間の月　疎影

掃除人秋は柳よかいつらき

茶屋のとき清流の川あり

水すき雪撥らい月形秋まして　同

物川ふ人秋の雲あり

茶の花地蔵の石あり　同

番のおせを清らしく抱らへ

きらきら菊花端蓋の上　同

お白ん

あいさつ門よきさのまゝ秋とあり　同

おあらう川四蔵寺よ秋雲多

清らぬ山の物ら秋蓼　五株

ためあゝ肌のきさお泊ゆ

掃お撥ふ人乃雲ら多秋月　東用

荒畑へ石ら〳〵うます月の影

ゆ　徳ら す蔵を きらこ　北丘

代表の名ちもやき門牡

たら〳〵ら〳〵ら秋風ふく　守大

ゆこの清を松ら変き

きらさを月よ〳〵ら〳〵ら　保光

万流

鱸船

可行

洞竹

葵光

車用

百長

馬十

兎文

守大

[illegible]

[illegible]　万流

[illegible]　鱸船

[illegible]　可行

[illegible]　洞竹

[illegible]　葵光

[illegible]

[illegible]　車用

[illegible]　馬十

[illegible]　百長

[illegible]　兎文

[illegible]　守大

[illegible]
月見て月の出る山を越　里有
[illegible]の[illegible]の高く
富士の麓の水はかすみん　夫士
秋色は[illegible]中を[illegible]
[illegible]の[illegible]の海原や　草伍
月もよく[illegible]　付書院
[illegible]すゆく秋　有秀
[illegible]の月は[illegible]
[illegible]の水もすむ秋　疎影

[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の味　可行
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
月[illegible]　魚千里
[illegible]の[illegible]の[illegible]の水入を　守大
[illegible]の[illegible]　[illegible]月
[illegible]の[illegible]　日
秋の風[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　疎影

眺望て高うをさう　舟

掃二落ス　霧ヲ　樓ノ　帚　巴江

樓をうめ仲間を月よ張し合

江州膳根　謂牛

ふとう竹のまハりやい〻う

高の山澤々二筆うやけう

巴江

をゆの高く八高　峯乃松

弗明山く笑良やう〳〵

謂牛

まつ〻ちも約ゆもあう秋の蚊帳

侯うきと昔のきう波女

無何

村雲よ月うち上をこ得まう

四鳴

夏夜のきあら　徳うう

夕来ていとゆう燕を門かう

行よ水を呼通ふる自在鍵

佐賀　菊久

東秋よすう雲をまり　窓

涌泉の窓よ居ゆ山寅乃月

江州新庄　荷枝

ゆうあり山さハやり月う　河雲

蓮美盃　あう東ゆ　寺

常軻

雲の月ちく〻雲て月よう

義入の徳う一茶ちくさう

大津　其吹

月乃月う　踊　茶　臥

秋のうこ屋根の名残まこい咲き

荷枝

を風まこまや 霜を 蛍 けき

光有節へ まこます 秋 風

津國山田 蘆風

相落こ 相あるこ とのこう 窓

深緑ハ月を 秀 へまQく 為

歌丸

小刀のこ人 秋の 菓 子 盃

超テ 海ヲ 遍ー 叅ノ 鴈

感ノ 時ヲ 隱ー 遁ノ 蛇

國友 淡泉

ぬき佛 もQ月 名 山のち

鼻 のき 花 色 帰 を 来 る 蓮

荷秋

おう 恋 事 の 歩 る 和 乃 ふ う 月

青湖

あう 後 の 秋 風 世 乃 身 ち こ 為

月 の 色 霧 の 舟 へ 水 の あ と

西宮 蒼波

ふま 歩 こ ま ち 曼 殊 沙 花 咲

大 根 鶏 の う と も 芋 巣 蕎

三 中 事 乃 僧 も 都 へ 後 の 月

青湖

落 の 光 も ま け る 和 月

蹴 つ こ 為 鶏 来 ぬ け 七 男 子 為

月

手 の こ う ま 乃 仕 こ ま ー や

ふ さ ま 徳 兵 あ こ も ま ま つ こ

月

蒲ハ穂にしく露も色々　　長濱　里更

きりしさ乃幡まちまちや御藍跡

網にすく貝ぞたるも殊なりや

夜寒ゝ止く　滴　禰り　月　　無何

朝夕をいつまで爪とさり遊ヘ

隠居の新乃　あの又　月出こし

病身に好歌の　鳴　ある

月の出こ冬乱れ　の　秋乃まゝ

あかい糸の樣にハあめと月ハさめとも

秋を分はゆら　寮の　清　塗　　江州甲須原　雪城

六二白ハ長濱御代生

九しつまゝ数珠も信者乃貢

秋ちりあくる　火筆のぬしき

我ハ月御爲せ乃ある　たまり

虫の声ハあけくる　詩　　青湖

月とゆう夜搦まかり　秋に付て

鳴引の津に石を六月や　月

蓑のまゝらぬ紫良乃床の　末　　日

我名ぞ日本國にあまりて

非泉花き断ちりの秋　　箕山

分散のあとのつきとぬれの月　江戸　齊山

青霧もあらしを月の吉野　秀

七つのうりの実のぬけし　月　芳根　餘江

鶏さよ明くるあらぬ芳戸もうそぶきく

右　在羽林

新更衣乃月の白ゆふ

月のかげも手細工乃窓　作者知

菊ちるる花のかを男　月

元山ちるまけ鶏　月　新

為名乃表の内きよ　雲い　月

まつ男ぬれと乃ぬい月ちる

西風ちる為ちる風ちる　何

光い照波の御流を

仏濱の水を清きる月乃あ

出きる廉まも　うつく　菴室

御面紅葉ちる御まを

新変猫も　秋くるい　秀

初のるい長後御流を後のい月御夢月

月を[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　長濱　琶洲

若[illegible]　謂牛

[illegible]　江州蓮津　鳳市

[illegible]　雪城

[illegible]　田辺　風車

[illegible]の[illegible]

[illegible]　江州五村　美天

[illegible]　蘿頌

[illegible]　柳文

[illegible]　佐賀　苔水

[illegible]　円　器水

[illegible]

凡を学べば必ず師を求む

学案

九

長賓

[illegible]　茶烟

[illegible]　江州十野　一童

[illegible]　荷杖

[illegible]　臙足

[illegible]　日速水　柳水

[illegible]　扇計

[illegible]　何杖

[illegible]　無何

[illegible]　巴江

[illegible]　常軒

[illegible]

車用

[illegible]

百尺

[illegible]

百花

[illegible]

草伍

[illegible]

藏牛

[illegible]

百長

[illegible]

羽節

[illegible]

魚乞

[illegible]

其梅

[illegible]

五株

嵐の吹いたりつゝ入さ弱りぬる
むまんと月をうり秋をしる　屋
秋よのうあいは張りさ　都
面白いと名をもつて高月乗　百尺
山里は何物もめつらしう
蜀漆の花をあけそあやしく　百花
雪消つて雪月乃雪
泉水の蓋は秋うをかまく　草伍
初潮の波をあけて来る海
よりて動くまと入る潮乃月　藏牛

小雪のふるあとい[illegible]風　疎影

[illegible]月未拂めくりよ[illegible]　織雨

[illegible]の月十四夜[illegible]　此通

[illegible]の変とい[illegible]　唖々

[illegible]や清のうつ[illegible]　万流

自雪さハ[illegible]の貞乃月

的月残ふ[illegible]

[illegible]の酒[illegible]

[illegible]

いけの用ゆ[illegible]月　同

猶[illegible]乃[illegible]

[illegible]

菊の雪残ハ秋乃[illegible]　草伍

[illegible]の変

[illegible]　百余

[illegible]の秋

八月[illegible]　疎影

[illegible]月の[illegible]

雪の[illegible]　可行

雪しぬ簾のあさは五葉を

入陣てうらいさまくの菓の事　鱸船

梅のうへ梅のうんあうやき

車後の侍すてめよ鴨の引　呂風

青月の月あらぬ赤ふけ

ちいさ足あと黄き　虫拾者　可行

尾張の神の鎮き　蝶乃蝶

飛前月ほしめらるい　秋乃蝶　万流

右　宇治山

羽拾ふと鶴鳴く月更

秋風ふるまれるる物乃命

赤い岩漢の市蔦牛

御堂の月いかるも雪ふて

孫昌のいあるる者い　水者　五株

鶏乃いのかたのひまうるん

打ふと角ふと山者ハ月　金童

梅の世やとくゆきけ合ぬ猪

事敵ふもふ秋の秋拾月　謂牛

[illegible]

知甫

神堂[illegible]乃[illegible]鶏乃

[illegible]

此通

[illegible]や感[illegible]如意輪の像

右　宇治山加三船

[illegible]

隨雪

蝉[illegible]蝉乃[illegible]鳴[illegible]

右　宇治山加佐國

[illegible]

來々

[illegible]乃[illegible]三[illegible]月

自[illegible]乃月

青湖

山雀[illegible]緑[illegible]のひ[illegible]

月[illegible]

其山

[illegible]乃[illegible]の[illegible]

右　宇治山加西樓

[illegible]

宇大

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

風狀

右　神妙

[illegible]

桃水

[illegible]

播州石原 一石

[illegible]

田辺 常軻

[illegible]

長濱 南飛

[illegible]

江州速水 和風

右 都良香

[illegible]

江州寺田 笑水

[illegible]

作者未知

右 在羽林

續霜轍誹諧集巻四

冬

庭作りは魚はなるさへさむさかな

松の力たゆく〳〵かるゝ雪の朝

右 菊須御院主

たまこの味も旅へ出る寒

松枯りし君わいあるゝ冬の山

水仙はいやさ川雪の伊吹山

かまきぬ遙へきゆう来る冬

此二句はかなしく御薦申しのまり

遠松りのあとをかゝぬれ山

積まゆ日のさます芝りも虫持考　玉芝

一村白の瀬狀のあと

ゆき雪り猫の宵ゝ名古祠　百工

虹立漬名ますゝめいろ游

名み楼ゝ松も時雨又かぬるゝ名　蔽牛

縣の人又作ふ総あり右佛

うらみ客松の中蔭　山節

よそとりかくも香なき一嵐

澤へ竹み名まゝ右雪　文好

猶しき居眠る所湯婆ぬくもりも
火のきえし火鉢ありけり夜あかし
守大

為上の自鳴鐘さしめ懸掛
一方ハ手あるのふせく城かまへ
呂風

菜野菊ありかたきお帯し
紅葉傘焔の間乃物さかしん
其梅

彩のこまむ会仏き蓋ありもれ出く
黒谷道も去うき霜
此通

雪よりくんてせりき水海
冬の為水へも出へて南へくと
魚千里

こかしよみむらかし菜麸
火吉もり出の志むハ火桶よ高め
守大

然り花の手陰の蓋くれき
あ猶　梅あくらむ花
我笑

のあ盃りしあハり流く志
なくハ月ちとてかさみ窓の雪
此通

冬の蠅目あしかりさや雨しくらん
醤のあらく牛乃菜こそ
琢彩

志む年も　まハり縁まハ
雪乃作何もよのしよかもしれ
月

五英

蹴影

鱸船

魚千里

鱸船

たゝ

可行

貞右

百花

日

大藤寺門前屋敷あけく梅もよし

[illegible]雪　今ゆるしあること　此通

かこまれの去乃遊きをきそう

かきひけるう　清ら　雪　我笑

色の死くすせりまい　赤

あもと　海面の　雲つる　河ゆう　窓　保丸

弁をもく三線も　をこゆう

風ゆう　こゆく　水　雪　梅い　清　亀翠

市　前　あつる　雲い　ゆる　き

物い　ゆや　去　をおつと　ゆう　乃　月　可行

むゆう　ゆうめの　身と　ゆや　系　後

海けを　い　後ゆう　石　落　ゆく　河　ゆ　ゆう

ゆく　ゆく　用　乃　夕　月　ゆう

三夕　月　を　ゆい　未　梅　の　ゆ　ゆう

江刈彦根　宮之

大根の　う　後　ゆ　月　ゆ　ゆ　ゆく

ゆく　ゆ　い　後　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

月延勝寺　一飛

未　熟　の　舟　ゆ　ゆ　い　一　艘

月長濱　南飛

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　月　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　き　き

月新庄　荷枕

帝　の　ゆ　ゆ　ゆ　い　後　後　ゆ　ゆ　後

長濱　琶洲

安　孔　溝　梅　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ちりつくし風のこがらし縄暖簾
あつさり雪で洒す乃蝶作り
勢州白子 英子

くらき所り光る年の目
案よかる雪も夏まで京へ出
江州落合 三花

流石乳母懐にあたゝめさせて
潤花の此畫火きもゝすし
彦根 箕山

こはぬ所もみかけの末
初雪にかさ人ゆきかふ茶碗酒
長濱 蘿婦

寺り泊つく夜狸に狗起
菖蒲葡粉のとろぬめかまへ
彦根 箕山

茶の色地ハまつきりき
こほろ陰にかゝる絲五乃鮒膾
江州物部 正峰

気をもむ心のくもりハ消えうも
山茶花より来る只ひとり蝶
同猫今村 四鳴

唐人の小家ハ探りにきへあふく
雪あとも月乃雪の後京
丹後田辺 花丸

子細に露地の戸を敲くき
むく起の隈ありおもみ雪乃狗
江州海津 如泉

かゝるかけ非に歩あけ
月寒し対うる夜ひき桐火桶
津國西宮 秋房

師匠の新法師の人徳あらて
芭蕉の骨をうつる初雪　羅婦

藁ぶきの屋根のうつる初雪　荷秋

穂をとりてあらしの雪のあさうら
みやりて物のもとをうつる　月

白い鶴の人ぶき雪の月　月

水鳥の糸底小ぶきの
流すうつ波の糸筋の乱れら　三峰

小ぶ火かまへくわらき南窓
咲よりうつる手物　彦根　青湖

雪をうつる山茶家の
白雪やうつる花を花をうつす　江州顔戸　酔月

水仙の庭より筒よりうつ
海苔のうつりの人のうつる　川塩津　柳枝

海苔のうつる水をうつす
小ぶくろの孫を命をうつる　長濱　東家

きこうく物うつる上うつる月
夏のうつる風　此夏　江州國友　扇計

陣屋の食料のうつる
夕きうつる　山城新　南樓

物はきのあるかけをの雪

大津　以文

[illegible]

荷杖

[illegible]

城外淀　三千坡

[illegible]

荷杖

[illegible]

江州松村　只分

越年　年の　藏も　[illegible]

年貢[illegible]の用の一

[illegible]

長濱　机友

[illegible]

羅婦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水仙まさいうえ毎年乃上つる

きのふ乃雪て初雪の伏者　長濱　柳文

疎鐘も少すり起を待

ふるかなや屋敷をあるく亀光

春象戯の雪あるかの雪の湯まく　津國山田　蘆風

ちりをうせるまく　大津　其吹

味の素の徑山寺味噌

多持月傳を越る雲く亀　肥前佐賀　拗松

赤ちき人の口物かるしろく

多春の神うり味かるこ　同　嘯風

うるうの山を大山乃内

船ばを何ひきき小船かるり　同　茶烟

狸をうる毛彩乃物毎よ点りて

荷乃ろ茶の きつり　山茶花　作者不知

多乃の赤色民をおきりて

多るおよ雪見の奥乃うひ変

ちの毛毎ものと世情いちの毛義　松月

猫を机の上り　まく　きき

右　都良香　張賦

月出て[illegible]蒸物の湯気
落雪よ前引蜘蛛の網乃あと　作柔知
雪の門[illegible]
師走[illegible]後蔵いの[illegible]　蹄影
[illegible]のあ[illegible]乃葉
[illegible]　百花
[illegible]
[illegible]　百余
[illegible]
[illegible]　百尺

耶鄭のやうよ[illegible]
[illegible]
[illegible]　秋房
[illegible]
[illegible]　青湖
[illegible]
[illegible]　江刈深山口　壺秋
[illegible]
[illegible]　酔月
[illegible]
[illegible]　芭洲

月を素白とまとしその秋
荒谷の志門んて居ゆら 秋 梶 荷杖

その白見もちる雲道
帆梶乃音を〳〵 遠も大 湊 丹波馬路 半人

引おもふ弟の居い 敷乃篠
水無乃面りしく水 仙 江州新庄 如翠

雪見て菜を食ます半
猫丸の家もたもす 柘 柳 可行

碓ニ 雪ノ 夜ニ 雷ー 木
猫を 竈 りをとも孝 巴江

孝をりをり安沙羅の孝
をもを猫をををを日和
月を羅もを月をを物の秋
ゆをしを行ゆを 石 頭
消めゆく月を光る星乃多
水柘をを梅の志 月
ゆをしを乃を月を物の秋
水仙をけををゆをを
志三向長須神社を

但州豊岡 雄飛

注 在羽林

月も素盞嗚とまりしその夜

熊谷のあるんてあるゆら　夏　柱

[illegible]

荷杖

[illegible]

大海の師走のうすき霜の夕　玉芝

僧とまろうを習ふ当次

雪のあら月夜かるく松の夢　可行

雪の夕屋根の花とあるひとく

鯨高丸ひ浦の金山　松仙

温泉の湯のくさ湯の夕

雪寒の風さかまりて吹　草伍

徒もきとたしもあぬ石端の苔

霜寒の月の冷飯　鱸船

[illegible]

時雨ふりあつい雲ふりも飛鳥　月

市堂京の苔乃霜月

鈴定風もて酒つく炉ふりふり　疎影

[illegible]

かもあるかるる雪い苔ふる　有秀

人ふ静めて猿も合掌

鉢屋ふりあんてふ暖の月　青湖

奥あいのふ宮いたくとき

唐茶い鉢面乃ふるかふきき　茶烟

雪のつもるを惜む雪の日

[illegible]漬粥の名[illegible]　羅婦

[illegible]　南飛

雪のあしたの手紙[illegible]

樂の聲古の[illegible]　青湖

[illegible]雪[illegible]

夢や[illegible]臭の猫よりも

[illegible]　巽山

[illegible]

今年も江戸の顔見世[illegible]　同

[illegible]

[illegible]

[illegible]　巴江

十[illegible]

[illegible]雪を待

右[illegible]

右宇治山

[illegible]

[illegible]月[illegible]高[illegible]

其梅

時雨ハあるまじくちる時

ちめうめ松のきしきちる乃物　隨雪

十月の十三日ハまれ乃月う

あしと乃ちるまじ　百長

右　神歌

鶉鼓ハうしれあしき肥肉

朝市乃一毒ハ毒乃毒　貞右

右　筑波

昭和學館 蔵書 6926 受入 昭和36 3.14

江州錦織

5